



まねん

第36号

平成28年
1月12日

年頭所感 2016年の新年を迎えて

院長 宮本 勝也



2016年 新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましては、健やかに新年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

昨年は4月より院長が長年当院を支えてこられた中井志郎先生から私に交代し、また8階病棟を急性期から地域包括ケア病棟に変更し新たな船出となりました。幸い職員の努力、チーム力によって入院患者数は前年度を超え、職員数を増加させたにも関わらず経営的には何とか良い方向へ進んでいるように思います。就任時、職員の意欲度、満足度を上げることを目標にあげましたが、まだその成果はみえておらず道半ばではあります。職員一人一人が、自分が医療職になった志を達成できるような組織を作っていきたいと思います。

今年には4月に診療報酬改定が行われ、7対1入院基本料の算定要件が厳格化される予定です。それに対応するには、更に病院の機能分化、強化をする必要があります。当院の伝統である消化器疾患に対する医療を集約化、効率化するために5月には消化器センターを開設致します。内科、外科の枠組みを越えて、患者さん毎に最も効率的な診療を行い、専門性を前面に出したいと思っております。また内科・外科の合同カンファレンスを頻回に行い、高度な医療を提供する体制を作りたいと思っております。それに伴い内視鏡室の改造を計画しています。産婦人科病棟であった4階病棟を改装し、内視鏡室の拡充、前処置室や安静室の新設等、患者さんが快適に検査を受けて頂けるスペースを作る予定です。

病院内の改修に併せて、かねてから患者さんから要望の多かった狭い売店を広くし、駐車場も整備する予定です。その他では、老朽化した床や壁の改装、玄関のタイル交換などを行い、ハード面でも患者さんが心安らかに療養できる環境を整備したいと思います。また職員更衣室の拡充、会議室や事務室の新設等を行い、職員にも満足を得られる設備を作りたいと考えています。

地域包括ケア病棟は急性期医療を終了し病状が安定した患者さんに対し、在宅復帰に向けて医療や支援を行うことを目標とした病棟で、併せて在宅療養中の患者さんが入院の必要があるとき、かかりつけ医の先生より依頼を受けて入院していただく病棟でもあります。新たな取り組みであり、試行錯誤しながら運営を行っていますが、まだその機能を十分には発揮できていません。今後の医療は在宅医療の充実が求められています。地域の包括ケアシステムの一役を担うべく、他の病院や施設との連携を深め、患者さんの在宅医療のために貢献したいと考えています。

今年には当院にとっても大きな転換期を迎えようとしています。消化器センターおよび地域包括ケア病棟の2枚看板を中心に、眼科をはじめその他の診療科も従来通りの診療を行い、地域の先生方や患者さんに喜んで頂けるような病院を目指します。職員一同、当院の理念を全う出来るよう志を持って医療を行ってまいりますので、本年もよろしくお願ひいたします。

介護老人保健施設 記念寿の紹介

支援相談員 荒井 恵

記念寿は平成12年4月1日、介護保険制度と同時に産声を上げた施設です。入所定員（ショートステイを含む）48名、通所定員20名と小規模ではありますが、家庭的な雰囲気の中、和やかな楽園です。しかし、ご高齢の利用者にとられまして、日々の生活は少々スパルタ…かもしれません。入所当初は、離床時間の多さに、時に悲鳴を上げる方もいらっしゃいますが、その甲斐あってほとんどの利用者様が現状の心身機能を維持・向上され在宅復帰を果たされます。入所時より在宅復帰に重きを置いたケア・リハビリを実施しており、ご利用者様・ご家族・関係者様のご理解、ご協力の下、平成26年11月より在宅強化型の介護老人保健施設（※）として運営をさせていただいています。

介護老人保健施設は、リハビリを中心とした医療及び介護サービスを提供しながら多職種が協同して在宅復帰を支援していく施設です。そのため、記念寿には様々な資格を有する職員が働いています。

施設長(医師) 平成27年4月より中井志郎先生が着任されました。それまで広島記念病院院長をされておりました。入所期間中は、医師である施設長が、かかりつけ医となり利用者様の健康管理をおこなっております。また、利用者様の病状が急性増悪した場合は、施設長である医師と協力病院である広島記念病院の医師が連携して、迅速に対応しております。この事は、記念寿をご利用されている皆様、ご家族にはとても安心していただける体制との声を、今までも、多くいただいています。

看護師 利用者様の健康管理の一端を担っております。介護職員とともに利用者様の生活リハビリ・身の回りのお世話等も行いますが、体調の変化に気付き、素早く対応ができるよう、常に看護的視点を持ってケアさせていただいています。

介護職員 利用者様の生活リハビリ・身の回りのお世話等をきめ細やかに行っています。利用者様の尊厳を大切に、心のこもったケアを提供させていただいています。認知症の利用者様への対応、排泄ケアなど、常に新しい情報を取り入れて実践しています。

作業療法士 在宅復帰に向けて集中的な維持期のリハビリテーションを行っています。歩行練習、筋力トレーニング、創作活動など、利用者様に合わせたプログラムで機能向上を目指します。

管理栄養士・調理員 日々のお食事全般にわたりマネジメントし、栄養バランスの整った美味しい食事を提供します。

支援相談員 入所相談から退所後の生活に支障がないように担当ケアマネージャーなどと連携をし、ご家族を含めた生活全般にわたる相談支援を行っています。

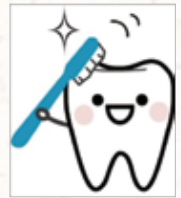
事務員 保険請求業務・窓口業務を担当しています。



支援相談員の荒井です。利用者様、ご家族の要望に添ったプランを提案させていただきます。お気軽にお声かけください。



※在宅強化型老健施設とは、①退所者の50%以上が在宅復帰されている(在宅とは自宅もしくは自宅に類する住まいである有料老人ホーム、サービス付き高齢者住宅等をさします)、②ベッド回転率が10%以上、③要介護4・5の入所者割合が35%以上、の要件を満たしている施設です。



また、もうひとつ、記念寿の特徴としては、同一建物内に、広島記念診療所（歯科）があるということです。義歯を使用されている利用者様にとっては、口腔内を保清、義歯調整、また新たに義歯を作成しながら、生活リハビリを実施できる施設はそうそう市内には存在しないため、喜ばれています。リハビリ療養をしながら並行して歯科受診ができ、ちょっとした微調整にもすぐに対応をしていただけるのは、記念寿の強みでもあります。



本川保育園児さんとの交流会の様子です。今回は施設長がサンタクロースに変身しました。

記念寿では、色々な行事があります。桜の季節には、近くの公園に花見に出掛けます。さまざまなボランティア団体様のご好意で、童謡を中心とした歌のコンサート、オカリナコンサート、銭太鼓、車椅子ダンス、本川保育園の園児さんとの交流等々も開催されます。月に1度は移動売店が来まして、皆様あれもこれもと買い物を楽しまれます。またお食事も、春にはお花見弁当、夏はおやつにかき氷、秋にはお食事会、冬はクリスマス料理におせち料理、今年度は新年会としてランチバイキングも開催される予定です。このように行事もたくさんあり、楽しすぎて「記念寿にずっといたい」と言われる利用者様も多々いらっしゃいます。とても喜ばしいことなのですが、在宅復帰という目標を掲げる施設としては…少々悩ましいところです。

介護老人保健施設は、在宅生活を引き続き支援する施設でもあります。施設入所サービスの他にも、在宅サービスとしてデイケア・ショートステイもご利用いただけます。介護者の休息・健康管理目的・他者との交流…と、利用目的は人それぞれですが、ご利用者様の要望に沿ったサービスを提供できるよう支援させていただきます。

記念寿は、介護保険制度に沿って運営されていますので、介護保険が適用される方が対象者です。介護保険法上、入所期間は具体的には定められてはいませんが、一生涯にわたり生活するところではなく、あくまでも在宅復帰を目的とした中間的施設としての位置づけとなっています。ご利用中は、ケアプランに沿って、定期的に元の生活に戻るために必要な心身の状況・家庭環境・家族の事情など、様々な事情を勘案した上で、退所後における生活に支障がないようにサポートをしていきます。



美容ボランティアの様子です。2ヶ月に1回、ワズヘア様のご好意で利用者様の美容サービスをしています。



作業療法の様子です。塗り絵、切り絵、書道、脳トレなどさまざまなメニューがあります。皆様楽しそうに、積極的に参加されています。お隣同士でカバーしあったりする姿もみられます。

介護老人保健施設 記念寿が、地域の皆様に必要とされる施設でありたいと思います。どうぞ、これからもよろしくお願い致します。

本川子育てオープンスペース「ぽっぽ」報告

看護部 福井 彩香

日 時：平成 27 年 11 月 18 日（水） 10：00～11：00

担当者：感染管理認定看護師1名 看護師2名 助産師1名 薬剤師1名
栄養士1名 計6名

場 所：本川児童館

参加者：親子 32 組

本川子育てオープンスペース「ぽっぽ」は、0～3歳の子供とそのお母さん達が交流を深める場として提供されています。毎月第3水曜日に開催されており、多いときには50組以上の親子が参加されます。

育児中のお母さんの力に少しでもなりたい、そして、広島記念病院をもっと身近に感じていただきたいという思いから、年1～2回参加させていただいています。今回で8回目の参加となりました。毎回、薬や離乳食についての相談が多いため、前回と同様に薬剤師、栄養士をメンバーに加えました。

最初に、佐々木薬剤師から質問が多かった“薬の飲みせ方”について、ミニ講座（5分程度）を行いました。その後、お母さんと子供達の輪に職員が入り、食事に関すること、歯の生え方、歯磨きの仕方等の相談を受けました。内容に応じて、栄養士・助産師・看護師で分担しながら対応しました。

また、これからの季節、流行が考えられるインフルエンザやノロウイルスに備え、感染管理認定看護師 中野看護師から“菌の伝染”について説明を行いました。

最初に、お母さん全員に手袋を着用してもらい、先頭のお母さんの手に（手袋の上から）蛍光塗料（＝菌）を付けてもらいました。そして、順番に握手を行い、全員が終了した時点で、先頭のお母さんから順番に手にブラックライトを当てながら、蛍光塗料（＝菌）の確認を行いました。その結果、先頭から7人目くらいまでのお母さんの手から、蛍光塗料（＝菌）が確認されました。

電車のつり革やエレベーターボタンなど、日頃触れているものから、菌が広がっていくことを体験してもらったことで、手洗いの重要性をさらに実感していただく機会になったと思います。

参加したメンバーのほとんどが子育て中で、メンバー自身もお母さん達と育児の楽しさや大変さを一緒に語ることができ、そして、かわいい子供達と触れ合いながら、楽しいひとときを過ごすことができました。

－次回も参加できることを、メンバー一同、楽しみにしています－



感染管理認定看護師が担当



薬剤師から説明…

中央検査科からのお知らせ

中央検査科 技師長 石竹 久仁

中央検査科では免疫発光測定装置（ルミパルスG 1200）を平成27年12月1日より稼働致しました。これにより従来、結果報告に3日程度かかっていた腫瘍マーカーや肝炎マーカーおよび甲状腺マーカーが、採血当日の診療前までに結果が出せる体制が構築されました。

特殊機器の為、生化学検査などより少しお時間がかかりますが当日中に結果を説明できることは、患者様により満足いただけるものと確信しています。

今後とも医療の質向上を念頭に患者様の一日も早い回復をお祈りして大切な検査を責任を持って行っていきます。

院内実施に変更された検査項目

腫瘍マーカー	CEA AFP CA19-9 CA15-3 PSA PIVKA II
甲状腺マーカー	TSH FT3 FT4
肝炎マーカー	高感度 HBs 抗原 HBs 抗体 HCV 抗体

3大会連続の入賞

用度施設課 菟場 謙治

12月1日旧市民球場跡地で行われた、第49回広島市消防競技大会消火器男女の部において、わが広島記念病院チームは、一昨年の準優勝、昨年度（今年2月）の準優勝に続き75チーム中堂々の3位の成績を挙げることができました。

今回初めて参加した理学療法士松本朋之君と昨年度も参加した5病棟看護師毛利楓さんの2人が僅か2日の練習にもかかわらず、的確な消火器操作と指揮及び通報で減点もなく素晴らしいタイムをたたき出してくれました。圧巻は毛利さんの消火器搬送タイムは3.79秒と参加者中トップの記録を出したことです。

消防競技大会をとおし、日頃から初期消火の重要性を認識し、火災から人命（患者さま）を守り、財産（病院）の保護や被害の軽減を図ることは職員として大切な任務です。

是非来年は出てみたいと思われる強者は用度施設課菟場にそっと耳打ちしてください。



TQM 活動報告

平成27年度TQM (Total Quality Management) は12月4日(土)に成果発表会が行われました。当日はたくさんのスタッフが発表会に参加し、普段あまり関わることのない部署のことを知ることができたり、取り組みに刺激を受けたり、多くの学びがありました。どの部署もそれぞれ素晴らしい取り組みであったと思われるのですが、厳正な審査によって点数が付けられ、12月18日(金)病院忘年会で順位が発表されました。

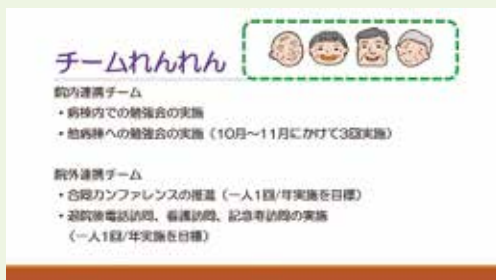
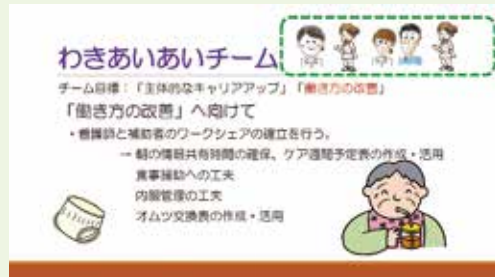


8病棟 『地域包括ケア病棟の取り組み』

～地域に帰そう! 私たちの手で!!～

平成27年度より8病棟は急性期病棟から地域包括ケア病棟に移行しました。それに伴い、看護師の配置も7:1から13:1に変更となり、今まで看護師で行っていた業務を補助者と協働して行うよう、働きかたの改善が必要となりました。そこで病棟内で「わきあいあいチーム」を結成し、看護師と補助者の情報共有と業務分担、食事援助の工夫、内服管理、オムツ交換について業務の見直しと改善を行いました。

また、円滑に院内連携、院外連携を行うため「チームれんれん」を結成しました。院内連携では、病棟内外で勉強会を開催し、地域包括ケア病棟を知ること、求められていることについて理解を深めました。院外連携では退院支援専任看護師を中心に、退院前合同カンファレンス、退院後の看護訪問、隣接する介護老人保健施設記念寿への訪問等を実施し、連携の強化を図ってきました。また週に1回の退院支援カンファレンスを開催し、患者様やご家族の意向に添えるよう調整を行っています。



2位

中央検査科・放射線科

『検査のご案内の作成 ～患者サービスの向上とチーム医療の推進を目指して～』

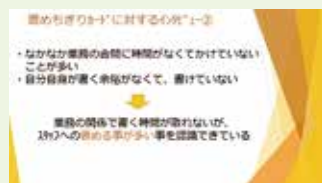
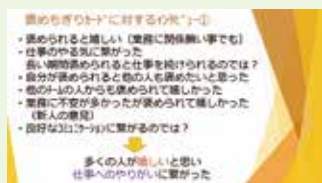
昨年度、中央検査科では主に血液検査や尿検査で分かる検査結果を解説した冊子「検査のみかた」を発刊しました。そこで今年度はCT、心電図、エコー検査などの画像診断について解説した冊子を中央検査科と放射線科が合同で作成することを計画しました。両科でページレイアウトは統一し、それぞれ担当を決めて作成しました。写真や図を用い、検査所用時間や検査を受ける上での注意事項も記載し、初めて検査を受ける人でもイメージがでやすく、少しでも検査に対する不安が軽減できるように工夫しました。現在原稿が出揃い、最終校正の段階まで来ています。今年度中の発刊を予定しています。患者様には、『検査のご案内』を是非手にとってご覧いただき、検査を受けるときの不安解消や検査後の説明を受けるときの参考資料としてご利用いただけますようお願いいたします。



3位

5病棟 『Enjoy Working ～褒めちぎりカードを活用して』

5病棟は今年度の運営目標を「チーム力の強化 ～あなたも私もチームの一員～」としました。スタッフを褒める一言、業務を手伝ってもらった時のお礼の一言が増えれば嬉しく思い、にっこりと微笑んで仕事ができるのではないかと考え、「褒めちぎりカード」を導入しました。気付いたことがあれば「褒めちぎりカード」に記載し、個人毎の台紙に貼り付けるようにしています。毎週木曜日を「褒めデー」として設定し、積極的に「褒めちぎりカード」を記載するような工夫もしました。不安でいっぱいの新入職員も、先輩から褒められることで自信が付き、また頑張ろうと思えた、といった感想がありました。誰でも褒められると嬉しく感じ、仕事のやりがいや良好なコミュニケーションに繋がっていると感じています。「褒めちぎりカード」の導入によって『働きがいのある職場』『楽しく働ける環境 (Enjoy Working)』が実現できていると考えています。



10月 地域医療従事者研修会報告

感染管理委員会

日 時：平成 27 年 10 月 29 日（木） 18：30～19：45

テーマ：「予防できる感染症～ワクチンなどで予防できる感染症～」

講 師：広島県感染症・疾病管理センター センター長 桑原正雄先生

参加数：85 名

はじめに、世界3大感染症の一つである「結核」、世界的に大流行しているエボラ出血、MERS（中東呼吸器症候群）や、デング熱、SFTS（重症熱性血小板減少症候群）など昆虫媒体感染症と多岐にわたり、とても分かりやすく病態や感染対策を説明していただきました。

ワクチン接種の有効性については、いろいろな場面で議論が繰り返されています。しかし、今回の講演では「集団の約85%以上の人々が免疫獲得」することで、免疫を持たない（ワクチン接種できない）人々への感染症の伝播を阻止できる可能性について理解することができました。

以前、我が国では麻疹の大流行を経験しましたが、国の対策により現在は麻疹排除認定国となりました。しかし、その後も継続的にワクチン接種し、国民全体で免疫獲得を維持し続けることが重要であることが感じました。

当院もワクチンで予防できる感染症に関しては、全職員の85%以上接種を目標に実施していき、集団免疫を獲得し安心して安定した医療・看護を提供していくことが重要な役割であると考えています。

桑原正雄先生にはご多忙の中、講演いただき感謝申し上げます。講演で得たものを、今後の実践に活かして行きたいと思います。



11月 地域医療従事者研修報告

緩和ケア委員会

日 時：平成 27 年 11 月 12 日（木） 18：30～19：30

演 題：一般病棟での緩和ケア～チームとしてできること～

講 師：県立広島病院 緩和ケア認定看護師／緩和ケアチーム専従看護師
原垣内里奈先生

参加数：61 名

今回は、県立広島病院 緩和ケア認定看護師／緩和ケアチーム専従看護師の原垣内里奈先生に、一般病棟での緩和ケア～チームとしてできること～をテーマに講演して頂きました。

最初に、県立広島病院緩和ケアチーム（PCT）の活動をお話していただきました。PCTは、緩和ケア科の医師、薬剤師、緩和ケア認定看護師のコアとなる専従メンバーと、医師（精神科医含む）緩和ケア認定看護師、医療社会福祉士、心理療法士からなる兼任メンバーで構成されていること、専従のメンバーが日々の活動を行い、週1回は兼任メンバーも参加してチームカンファレンスを行っている。少ない人数で集約的に活動され、定期的に多職種で話し合うことで、素早い情報収集と対応を可能にされていることがわかりました。

次に、PCTが診断早期から介入し、他職種の連絡調整を行うことができたので、辛い状況の患者と家族に寄り添うことができた事例を紹介していただきました。まず、患者の病状や周りを取り巻く状況の情報収集と、トータルペインに対するアセスメントを十分に行った上で計画を立てること、その過程で様々な職種が関わることで、意見の食い違いが生じる時もありますが、その時は、相手の立場や倫理観を理解した上で、“患者にとって何がベストか？”という視点で話し合いをし、目標を設定、共有していくことがポイントになることを学びました。

当院でも、他職種と意見が異なり、目標設定が難しいと感じる場面が時々あります。今回紹介していただいた事例を参考にして、他職種やご家族としっかり話し合い、効果的なチームアプローチを展開していくことが大切だと思いました。

今回の研修で、私たちが緩和ケアを行う上で大切なことは、しっかりとしたアセスメントと、スタッフそれぞれの違いを理解した上で、共通の目標に向かってチームアプローチできる、コミュニケーションの積み重ねだと学びました。



広島記念病院 第16回 公開講座

地域連携室

日 時：平成27年10月13日(火) 13:30~14:30

テーマ：ここまで分かる!画像診断 ~ピンクリボン活動@広島記念病院~

講 師：広島記念病院 放射線科医長 亀田 祐子

参加数：70名

日本人女性のうち乳がんを発症する割合は20人に1人とされており、検診、早期受診が推進されています。そこで今回は、日頃から画像診断に携わる放射線科医長亀田祐子医師より画像検査について講義をお願いしました。

乳がんは女性の癌で最も多く、40歳代・60歳代をピークに、罹患件数が増えているのが特徴です。日本の乳がん検診のガイドラインでは、マンモグラフィ検診を原則とし視触診も併せて実施することが定められおり、検診対象年齢は40歳以上、受診間隔は2年に1度となっています。乳がん検診の受診率は2010年度で40歳代以上の方で24%程度と低く、その原因としては、「痛そう・恥ずかしい・時間がない・費用が高そう・診断を受けるのがこわい」などが挙げられています。ピンクリボン活動などで受診率は30%まで上昇したそうですが、今後も検診推進が必要であることを話されました。

画像診断についてのお話ではマンモグラフィ・エコー検査・CT検査・乳腺MRIについて説明されました。

画像からは、主病巣の広がり診断や対側病変の発見と質的診断、腫瘍であるか非腫瘍であるかの判断が可能であること、それぞれの検査の有用性・弱点などが説明されました。

講義終了後は、乳がんの簡単な見つけ方について質問があり、お風呂場で鏡を見ながら腕を挙げ、ひきつれがないか確認すること、見つけた段階で乳腺専門の病院へ受診することなど回答されました。ある芸能人の乳がん罹患のニュースもあり、来場者は女性が多く乳がんについて興味を持っていただけたと感じました。



広島記念病院 第17回 公開講座

地域連携室

日 時：平成27年12月1日(火) 13:30~14:30

テーマ：食道癌 最近の話題

講 師：広島記念病院 副院長 隅井 雅晴

参加数：80名

今回は食道がんの初期症状、危険因子についての解説を含めた最近の話題について隅井副院長より講義がありました。

最初に、食道の役割・食道の病気について説明がありました。食道がんについて、罹患率は男性10万人あたり6人以上、女性10万人あたり2~3人とされており、40歳代後半からリスクが上昇し男性では特に50歳代後半から急激に増加するそうです。危険因子として、飲酒・喫煙・刺激物・熱い食べ物や飲み物・塩気のあるもの・逆流性食道炎が挙げられており、特に注意が必要である飲酒と喫煙について詳細に説明がありました。

飲酒習慣でがんの発生リスクが約3倍に上昇するが、それはアルコール代謝産物であるアセトアルデヒドに発がん性があるためで、飲酒で顔が赤くなる人、ならない人、陽気になる人、気分が悪くなる人などの体質によって食道癌のリスクが大きく違うことの説明があり、皆さん自分に当てはめて、大変興味深く聞いておられました。

喫煙は、過去に喫煙していた人では3.3倍、今も喫煙している人では3.7倍にリスクが上昇し喫煙指数が高い人ほど食道がんのリスクは高く、1日2箱以上タバコを吸うヘビースモーカーでお酒が弱いのに飲酒習慣がある人は食道がんのリスクは190倍であることを説明されました。

そして食道がんの初期症状は少なく、自覚できるものとしては喉のしみる感じ程度、食べ物を飲み込んだときの胸のつかえるような症状があり、胸痛・背部痛が出現している時には転移していることが多いこと、検査としては内視鏡検査で特にNBI拡大内視鏡検査について説明されました。

また、食道がんの種類としては、日本では90%以上が扁平上皮がんで、欧米では腺がんが多いが、食生活の欧米化に伴い今後腺がんが増えることが予想されること、食道がんが一つあれば多臓器(頭頸部・肺・胃・大腸)にも出来ている可能性があること、食道がんの予防法は節酒(純アルコール約20g・休肝日を作ること)・禁煙(何歳からであっても禁煙)・二次予防として年1回は内視鏡検査(食道がんに詳しい・もしくは専門医での検査)が重要と講義がありました。

講義終了後は、質問が多数ありました。アンケートではよく分かった、病気にならないように気をつけたいと記入をいただきました。



広島記念病院「理念」「憲章」

理 念

患者の皆様が、安心して受診できる、やすらぎの環境及び満足と信頼が得られる最良の医療サービスを提供する。

憲 章

1. 私達は、「癒しの心」を医療の心として職務に専念します。
2. 私達は、患者様の人権と意思を最大限に尊重し、納得と同意に基づいた全人的医療を目指します。
3. 私達は、日々自己研鑽に励み、良質で温もりのある、地域に密着した医療を心がけます。
4. 私達は、地域医療体系に参加し各々の持てる機能の連携により、より合理的で効率的な良質の医療に努めます。

地域医療連携室

TEL 082 (503) 0730

FAX 082 (503) 1010

代表 広島記念病院

TEL 082 (292) 1271

FAX 082 (292) 8175

庶務課

TEL 082 (503) 1001

内科・外科

FAX 082 (503) 0722

産婦人科・小児科

FAX 082 (503) 0723

耳鼻科・皮膚科・泌尿器科

FAX 082 (503) 1010

記念寿

TEL 082 (294) 8400

FAX 082 (294) 8420

合庁(合同庁舎診療所)

TEL 082 (221) 9411

FAX 082 (223) 6204

歯科診療所

TEL 082 (294) 7858

外来診療担当表

平成27年11月27日現在
平成27年12月1日より、下記のとおり診療いたします。

診療科	受付時間	区 分	月	火	水	木	金	土
内 科	8:30~11:00	一 診	隅 井	山 本	隅 井	隅 井	城 戸	当番医
		二 診	江 口	田 村	城 戸	江 口	田 村	
		三 診	炭 田	阿座上	炭 田	阿座上	山 本	
		四 診		山 田		山 田		
総合診療科	8:30~11:00		横 崎	菊 地			休 診	
外 科	8:30~11:00	一 診	宮 本	横 山	坂 下	宮 本	坂 下	当番医
		二 診	橋 本	小 林	橋 本	横 山	小 林	
		三 診						
産婦人科	8:30~11:00	一 診	宮 本	小 林	坂 下	宮 本	坂 下	休 診
	13:00~14:30	一 診	横 田	横 田	横 田	横 田	横 田	
小 児 科	8:30~11:00	一般診療	岸	岸	岸	岸	岸	
	13:00~13:30	健診・予防接種	予防接種	乳児健診(予約) (第1・第3(火)のみ)	予約検査	予約検査	予防接種	
	14:30~16:00	一般診療	広大医師	藤井(裕)		岸	岸	
耳鼻咽喉科	8:30~11:00	一 診	長 田		長 田		佐々木、 又は久保田	
皮膚科	8:30~11:00		松 尾				森 脇	
泌尿器科	8:30~11:00			井 上		神 明	藤井(慎)	
眼 科	8:30~11:00	一 診	金 本	金 本	金 本	金 本	定 秀	
		二 診		藤 東		藤 東		
	午後(予約のみ)	手術	検 査	手術	検 査			
広島記念 診療所 歯 科	8:30~11:00		山 田	山 田	山 田	山 田	山 田	電話番号 294-7858
	13:00~16:00		山 田	山 田	山 田	山 田	山 田	
ストーマ外来 (皮膚・排泄ケア 認定看護師)	8:30~11:00			森 本			森 本	
	13:00~14:30				森 本	森 本		

土曜日は内科一診、外科一診のみ診療しております。

* 歯科を除く各診療科の再診受付は7:30よりおこなっております。

部分は女性医師です。

広島記念病院案内図



交通のご案内

JR 広島駅より市内電車宮島行き・己斐行・江波行にて、

本川町下車、南へ100メートル徒歩1分

広島バス商工センター行き・祇園大橋行きにて

本川町下車、南へ100メートル徒歩1分

広島駅前よりタクシーで約10分

駐車場

立体駐車場 72台、平面駐車場 10台

身障者専用駐車場 3台

詳細は病院ホームページをご覧ください